

会 議 録

会議の名称	行田市都市計画マスタープラン第6回策定委員会
開催日時	平成24年10月9日(火) 開会：午後1時30分 閉会：午後3時40分
開催場所	行田市産業文化会館2階 第2会議室
出席者(委員) 氏名	酒井建二 宮本伸子 柿沼貴志 吉田豊彦 秋山佳于 小河原勝美 橋本好司 野中昭夫 山崎孝子 白井裕泰 細井保雄 川田英一 荒井文之助 今村武蔵 町田光 長原順子 鈴木英樹 正田行夫 大久保毅 富岡誠 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏名	秋山量一 小林康男 井上光広 野村正幸 (名簿順・敬称略)
事務局・担当課	【都市計画課】岡村課長 青山主幹 金子主査 横倉主任 金古主任
会議内容	議事 (1) 第5回策定委員会の振り返り (2) 第6章 計画の実現に向けて
会議資料	(資料名・概要等) ・ 次第 ・ 資料1 計画の実現に向けて ・ 参考資料1 第5回策定委員会(9/27)のご意見に対する対応表 ・ 参考資料2 各種意見交換会(商工会議所・青年会議所)対応表
その他必要事項	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	<ul style="list-style-type: none"> ・酒井委員長あいさつ ・傍聴人は6名。
酒井委員長	<p>審議</p> <p>それでは、暫時、議事の進行を務めさせて頂く。皆様には、ご協力の程よろしく願います。</p>
事務局(横倉)	<p>それでは、早速、議事に入りたいと思う。第5回策定委員会の振り返りと第6章計画の実現に向けてについて、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局(金子主査)	<p>■参考資料1を用いて、第5回策定委員会の振り返りについて、事務局から説明する。</p>
事務局(金子主査)	<p>■資料1を用いて、計画の実現に向けてについて、事務局から説明する。</p>
酒井委員長	<p>参考資料1、2と資料1計画の実現に向けてについて説明頂いた。これから委員の皆様にご意見を頂きながら議論を深めたいと思うが、意見を頂いた際にはなるべく他の委員の方からもその意見に対する意見をいただきたいと思う。</p>
今村委員	<p>参考資料1の対応については、計画書の内容が固まった段階で文言等細かい部分について意見も出てくると思われるので大きな問題はないと思われるが、これらも含めて意見があれば伺いたい。</p>
今村委員	<p>資料1の3ページ、基本方針3の内容は素晴らしいと思うが、連携・協働のまちづくりはどこで行うのか。これに関連して4ページの図の中でも、市民と活動団体の参加、11ページではまちづくりに関する広報・広聴や活動に対する支援が書かれている。こういったものは、市の窓口を1本化すべきではないか。例えばコミュニティセンターみずしろという施設があるが、何のためにあるのか、どのように運営されているのか。それも含めて伺いたい。</p>
酒井委員長	<p>今村委員の意見に対して、他の委員の意見はいかがか。私もこの資料の中では市民、事業者、行政の連携・協働によるまちづくりが強調されていると思う。ただ、このような話はどこの自治体</p>

	<p>の計画でも必ず出てくる。これが実際に実行力を持つことが重要である。その時にポイントになるのは中核となる組織を誰がどのように動かすかということと、行政側が自治会やNPO、ボランティア団体等に対する育成や具体的な支援、あるいは緻密な情報提供などを本気で取り組まないとなかなかうまくいかないと思う。また、ものづくり大学などの高次教育機関との連携も重要と思う。</p>
<p>今村委員</p>	<p>現状では内容ごとに担当課が違っていて、市民・NPO活動団体等の調整機能がどこにもない。何のためにコミュニティセンターを作ったのか、原点に戻ってもらい総合的な窓口機能を持たせるべきである。そこへ行けばまちづくりに対する市民の情報がすべてわかる、そういったセクションが実はない。せっかくコミュニティセンターがあるのだから、そういった機能を持たせるべきだと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>コミュニティセンターは身近な問題についての対応には良いと思うが、今ここで議論している市全体の問題について、これからどのように関係各課が調整し、市民がそれに容易に参加できるようにしていくことについて、事務局ではどのようにお考えか。</p>
<p>事務局(青山主幹)</p>	<p>役割分担としてそれぞれ資料のとおり整理しているが、市として総括しているセクションは現状では無い状態である。それぞれの事業について住民発意で行ってきたものについて行政とどのように関わっていくとか、行政発意の中では市民の皆さんと一緒に取組んで行くということでそれぞれ事業によって協働の度合いが違うと考えている。</p>
<p>今村委員</p>	<p>一部そうした問題については地域づくり支援課で行っているのは知っている。しかしワンストップではない。市民との接点をワンストップにしてほしい。地域づくり支援課の職員をコミュニティセンターに1人置いて、市内の市民団体の活動をしっかり把握するといった調整役を果たしてもらいたい。われわれ市民団体同士では情報をキャッチして、相互に協力してやっている。文章で書くと格好良いと思うがどこへ行けば良いのかとなってしまうの</p>

<p>吉田委員</p>	<p>で、市民・市民活動団体の窓口は一本化してほしい。これは要望である。</p> <p>今の意見は私が思うに、コミュニティセンターを地域の拠点として働かせれば良いのではということだと思う。市がどのような思いでコミュニティセンターを作ったのかわからないが、今現在は地域の人が集まって将棋などの娯楽や展示会などで利用されている。今村委員の言われている、拠点となる場所をどこかに設けて、市民がそこに行けば行政のことが分かるような仕組みにしてもらいたい、そのように理解しているがいかがか。</p>
<p>今村委員</p>	<p>その通りである。いわゆるコーディネートをする場所がない。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>得てして行政側が市民の活動を十分に把握しているかというところではないと思う。お互いに情報のキャッチボールできる場所があればということだと思う。他に意見あればいただきたい。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>今の意見に関連することで、資料1の4ページの図はこうした計画では散々出されてきたような絵だと思う。これを見ると大学も事業者に含まれているが、事業者は事業をやる人というように決められているのだが、大学もある意味では市民であり、また、企業も事業者でもありながらその担い手は市民でもある。NPOの団体に入って色々な活動や事業をしていけば、それは事業者にもなる。つまり、こういう書き方自体が時代に合わないのかなと思う。それではどのように書いたら良いのかとなると難しいが、これらが一体となる、そこに色々な意見があってそれをうまく調整していく「場」であり役割を担う「人」というのが、今村委員が言われた所だと思われるし、まさに今の時代、それをうまくやったまちが成功していくと思う。話が飛ぶが、一番後ろにPDCAサイクルで回して行くというのがあるが、これがうまく回っているのかどうかをチェックしていく人が調整役でもあるというのがベストかと思うので、何とかしてそういったストーリーづくりが出来ないものだろうかと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>今の意見に対してはいかがか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>まさにそのとおりだと思うが、その計画を誰が検証していくの</p>

<p>酒井委員長</p>	<p>か、行政サイドだけでの検証というのは違うと思う。やはり市民を入れて検証していくことが必要で、誰が最終的に検証していくのか、そういった文言を計画の中に入れられれば良いと思う。</p> <p>都市計画マスタープランについては少なくとも都市計画課が検証していくことになると思うが、その都市計画課が、ここで議論しているように色々な方が参加して検証できるような形になると良いと思う。</p>
<p>今村委員</p>	<p>今、吉田委員が言われたチェックする機関については、委員の皆さんにチェックしてほしい所だが、例えば市民オンブズマン制度、あるいは本計画では市民まちづくり会議を開催して、何回か議論いただいているので、引き続き同じメンバー継続していけることを願いたい。</p>
<p>酒井委員長 山崎委員</p>	<p>他に意見はいかがか。今の意見でも良いし、他の意見でも良い。</p> <p>資料1の10ページに、3)のさきたま古墳公園の拡張整備・史跡整備の促進とあるが、最近「のぼうの城」の映画化の影響でさきたま古墳の観光客が増えた。そのためさきたま古墳公園の整備は大切であると思う。そして私の生家が民俗資料館に保存されているが、かやぶき屋根が古くなっている。これは県の管理なのか、市の都市計画課なのかあるいは文化財保護課なのか。また緑道の整備もよくやっているが、これも県なのか。市の財政と県との財政がどのように関わっているか伺いたい。</p>
<p>事務局(青山主幹)</p>	<p>さきたま古墳公園については埼玉県が管理している。市としては、都市計画課において都市計画決定の手続きの協力をしたり、用地買収については県から委託を受け、市として地元に入り用地交渉をしてきた。現在も用地買収をして未整備の箇所については地元の協議会と協力してポピーを植える等の活動を行っているところである。また、史跡整備の促進については文化財保護課が中心となって県と調整しているところである。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>もう一点、古墳公園の駐車場入口の商店が、2ヶ月ほど前に火災で焼失しまった。公園用地の規制がかかっており、何も建てることができないそうである。考えてみるとそういったお土産屋さ</p>

<p>事務局(青山主幹)</p>	<p>んといった観光客が来た際に買い物ができるお店が全然ない。観光を促進するのにどうしてお店が出てこないのか、市では考えているのかもしれないが勿体ないと思う。せっかく来た方がお土産を買って行ってもらえたらよいのではないかと思うがいかがか。</p> <p>おそらく商店のある場所は公園の事業認可を取得した地域だと思われる。認可を取得しているということは遠くない将来整備していくということなので建築ができないという話になっていると思う。市としては観光の中で、県が管理している公園ではあるが調整できる部分もあると思う。</p>
<p>細井委員</p>	<p>資料は非常によくまとまっていると思う。なぜならば資料1の8、10ページの施策の内容と担当部署がはっきりしていて良い。12ページのPDCAと実施計画の中身が重要に思う。この中身の策定をいつ頃までにどのようにやるのか、そして事業の実施、進捗のチェックをどのようにサーベイランス(調査監視)するかだと思う。11ページに記載のある、都市計画マスタープラン推進会議で定期的に進捗を管理していけば良いものができるのではないかと思う。</p> <p>もう一点、今のタイミングで合わないということで落としたものについても見直しのところでもう一回拾い上げる。例えば行田みなみ産業団地の隣接地に関する記述が少し薄くなったかと思うが、国や県のニーズ等が合致した場合には再度入れてもらうなど、漏れているところも見直しながら、PDCAを回していくことも必要ではないかと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>今の意見に関連して、根本的な所であるが、計画の実現に向けた3つのリーディングプロジェクトについて、今の段階で他に入れておいたほうがよいところはないか。</p>
<p>柿沼委員</p>	<p>リーディングプロジェクトに加えてほしいのは教育の部分である。やはり人がいなくなってきて小中学生が減少している。先日運動会を見学してきたが、私たちの時代に比べると半分になっている。競技をするにも人数が足りずに悩んだりしている状態である。私が思うに子どもたちが安心して過ごせるまちづくりをして</p>

<p>酒井委員長</p>	<p>いかないと人口は増えて行かないと思う。そういった部分が少し抜け落ちているのではないか。少し具体的に入れた方が良くと思う。</p> <p>教育についてはまさにソフトの部分である。都市計画マスタープランに関わるのは土地利用や道路等の施設が中心であるが、施設があればよいというものではないと思うので、表現として難しいと思うが、教育の部分も検討すべきかと思う。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>教育の入れ方だが、入れるとすれば元気作りプロジェクトのところに、子どもたちが元気になるような教育機関の統合配置といった文言を入れることができると思う。</p> <p>また、別の意見として、施策を実施してそこに色々な人が参加してチェックをしていくやり方の中で、今の時代なのでSNSをうまく使うような仕組みをいれてはどうか。セキュリティももちろん考えなければならないと思うが、市民の方々が誰でも都市計画マスタープランに関わる意見や改善点について、コミュニティセンターに行って意見を述べるのもよいが、SNSで発信していく形で意見を積み上げていくというやり方を取り入れてもよいと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>確かにインターネットの発達により、行政の情報提供に対して見る気になれば見ることができるが、提供しても見てくれない無関心な人も多いと思う。双方向のSNS等をうまく使うのは良いのではないか。他にはいかがか。</p>
<p>野中委員</p>	<p>この計画については良くできているように思う。ただしこれが実際どのくらいまでに実施されるかということだと思う。基本方針に「水と緑」が出てくるが、市内には忍川や酒巻導水路が流れているが、ある時期には水量が減ってしまい、ゴミなどが入ることから毎年臭くてどうしようもない。水と緑と歴史を活かしたと言っているが、他市から来た方は何だということになってしまう。また、土手沿いを散歩できるような道を造ってあるが、草が茂ってしまって使用されていない。せっかく市が造ったものが使えなくなってしまうようなことではなく、できること、目に見えるこ</p>

<p>今村委員</p>	<p>とをやっていたきたい。</p> <p>いつも行田の代名詞として水と緑が入ってくるが、実際に綺麗で人が近づける水でなければならない。また、緑は田んぼの緑ではない。本文にある屋敷林については、農家は管理が大変なので伐り倒しているのが実情である。森づくり環境再生事業をやってはいるがまだまだ足りないと思う。</p> <p>これに関連した質問で資料1の10ページに景観条例の制定というのがあるが、前から出ているようだが実際市がやる気があるのかわからない。もう一点、水城公園の水路整備とあるが、具体的に考えはあるのか。</p>
<p>事務局(青山主幹)</p>	<p>1つ目の景観条例制定について、行田市では平成11年に景観計画を策定している。これは景観法制定以前の計画だったので新たな法律ができた中では今後、景観法にあった形での条例の制定を考えている。水城公園の水路整備計画については北側のへりの水路整備を考えている。一部今年度から着工する予定である。</p>
<p>事務局(金子主査)</p>	<p>補足だが、景観条例の話の前に、県内で景観法に基づく景観行政団体になっている市町村が15団体ある。行田市としても今年度から主に景観行政団体で構成する研究会に参加して、勉強させていただいているところである。</p>
<p>白井委員</p>	<p>計画の実現に向けたリーディングプロジェクトの「水と緑と歴史を活かした、環境負荷の少ない集約・連携型の都市づくり」とあるが、環境負荷の少ない住宅づくりもプロジェクトの中に入れていくべきではないか。例えば元気づくりプロジェクト3)の所で、これからの社会に相応しい住宅あるいはまちづくりを先導的に実現させることを検討すべきでないか。環境問題は非常に大きなテーマであり、環境都市づくりといった項目が1つあってもよいと思う。意識はあるのかもれしれないが隠れてしまっている気がする。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>表現は良いのだが中身を具体的にどうするのかという所が少し弱いと思う。</p>
<p>柿沼委員</p>	<p>景観行政団体の研究会に参加しているということだが、景観に</p>

	<p>関しては市が率先して進めるべき重要な所ではないかと思う。景観に配慮した都市計画が行田市としては必要ではないか。景観条例の制定があがっているのは具体的で良いと思う。一番危惧するのは今回策定委員会でやっていることが10年後、前回やったことはどうなっているかということになりかねない。内容は素晴らしいし、わかりやすくなっているが、前回策定のものは絵もついていて具体的でわかりやすい。こうしたものも出して行きながら実際にできるのかということを含めて話し合っていく必要があると思う。</p>
酒井委員長	<p>他にはいかがか。ご意見あれば伺いたい。</p>
宮本委員	<p>資料1の12ページ3.関係機関との連携体制の構築について、これは行田市のことではなく、国や県といった外部に向けたことなので書きにくいと思うが、記載が4行だけというのは寂しいと思う。従来は国の立てた施策に関する補助金を市町村が狙って事業を進めるというのが一般的なやり方であるが、そのような時代ではなくなっていると思う。行田市から先導的に打ち出して県に応援してもらい、あるいは周辺市と手を携えていき、行田市が中心となって連携関係を作っていく。こうした認識でもう少し書き加えて頂けたらと思う。</p>
酒井委員長	<p>一般的には補助事業や提案事業を受けてそれをどのように使うかということになるが、国・県は先進的な取組みに対し非常に関心を持っている。行田市としても既成の制度を利用するだけではなく、積極的に提案して県や国を巻き込む気概が必要だと思う。</p>
細井委員	<p>資料1の8ページから見ていくと施策、主な取り組み、主な担当課となっており、よくまとまっていると思う。後はこれが良いかどうかを皆さんに確認していただき、追加できるものがあるかどうか、そして具体的に取り上げることができるかどうか皆さんで確認して頂いてはどうか。記載することが出来るのであれば、後は予算と工程管理だと思う。そして都市計画マスタープラン推進会議を定期的にかけて現状を分析し、市民、または商工会議所は何をすべきか、協力を要請するなどしていきながらPDCAを</p>

<p>酒井委員長</p>	<p>回していけば必ず実行できると思う。</p> <p>今、細井委員からそれぞれのプロジェクトに対する表の項目についての意見を皆さんから聞いたかどうかということで、それについて、具体的に検討することにしたい。例えば資料1の8ページの取組み一覧について、これによろしいか。</p>
<p>白井委員</p>	<p>3)の住居系土地利用の見直しの箇所について、エコタウンモデルの推進を入れていただけると良い。</p>
<p>細井委員</p>	<p>今の意見に関連して、埼玉県では5つの都市がエコタウンのモデル地域になっている。他の市と一緒にまとまることで、県から認めてもらえることもあると思うので私も賛成したい。もう一点、同じく3)の上尾道路など広域幹線道路の整備促進については、整備が後になっても完成すれば、活力のある企業を誘致することで市の財政の収入も増加し、雇用創出の効果もあるのでそういった表現も加えて頂けると良いと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>上尾道路などの広域幹線道路の整備促進にあわせた企業立地の促進を検討といった表現でよいか。また、8ページの表について細かいことだが1)の3つ目に身近な小規模店舗などの起業・経営を支える支援制度の充実について、小規模店舗の立地については7ページの2)に書いてある。都市拠点の形成とまちなか居住の誘導に重要なことではあるが、前に書いてあることを整合させようとする2)に、あるいは両方に入れておいた方が良いのではないか。</p>
<p>事務局(金子主査)</p>	<p>修正させていただく。また、2)に入っている産業系の記述は3)とさせていただく。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>具体的な提案が出たので事務局でも検討していただきたいと思う。次に9ページの表はいかがか。私からの意見として、9ページのネットワークづくりの中で、この中に交通結節点と観光対象を結ぶネットワークの強化を入れてはどうか。先ほど山崎委員から、観光について関心が高まっているという意見があったが、これを入れて頂くと良いと思う。行田市のまちづくりの1つの柱として観光まちづくりがあると思う。9ページの中では2)と3)が</p>

<p>白井委員</p>	<p>関連してくると思われるが、書いてある内容が観光の話とちよつとずれていると思う。2) の 3 点目で歩行者空間や自転車交通環境のネットワークの形成という記述や、3) の 2 つ目は観光資源をつなぐ歩行者空間や休憩所などの整備とあり、ネットワークの強化というより観光振興のリーディング事業として位置づけて、観光振興のためのネットワークの強化を入れておくべきではないかと思う。2) または 3) に入れるか、別項目立てても良いと思うので検討していただきたい。</p> <p>ネットワークと水と緑のどちらかに入ると思うが、行田市にはさまざまな観光資源がある。それらの観光資源をある場所で、映像や文字情報を使った拠点作りをしてもよいのではないか。さきたま古墳を世界遺産にしたいというのであれば、世界遺産に向けて、ヘリテイジセンターのようなネットワークの拠点を作っても良いと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>関連して他に何か意見があるか。無いようなので事務局で検討をお願いしたい。今、観光がクローズアップされているが、国としても観光を重要な産業として位置付けているし、地域にもたらす雇用・経済効果は大きい。大がかりな観光事業だけではなく、行田市ならではの観光施策を進めて頂きたいと思う。そのための観光拠点の整備やネットワークづくりは重要になる。その関連で、10 ページ 3) の中で参加・体験型観光というのは観光を限定的に捉えているようにも思う。にぎわいと交流や参加・体験型の観光というのは観光の一側面に過ぎないので、言葉の使い方と、観光を前面に出した考え方について一度検討頂きたいと思う。他にはいかがか。</p>
<p>柿沼委員</p>	<p>ネットワークづくりについて、市内中心部をつなぐネットワークも重要であると思うが、別の視点として、都心に向かう、また都心からこちらに来てもらうネットワークも重要ではないか。その際に秩父鉄道を使うのか、J R を使うのか、バスを使うのか、人の流れを市内だけで考えるのではなく、都心と関連付けた文言も必要ではないかと思う。</p>

宮本委員	ネットワークづくり主な取組み一覧の所だけ 3) がなぜないのか。1) 2) と重複する点があるのかもしれないが、行田市内を回遊することと、通常的生活で動きまわることの他に行田市と外をどのように結ぶかという視点がネットワークの中で抜けていると思われるのでそういった点を補強して3項目立ててはいかがか。
細井委員	先日県の産業部の方と話す機会があった。国宝に指定された妻沼聖天山と、行田のさきたま古墳、忍城とあわせて1日で回遊するのによいルートとなるため、県としては熊谷と行田あわせて何か企画したいとのことだった。そういった協力を近隣市とやっていくことはよいことだと思う。
酒井委員長	現実に今言われたような旅行商品も売り出されている。先ほど外部との関係が少し手薄だという指摘があったが、観光はまさにその通りで、行田市だけを考えるのではなく周辺地域との連携も重要だと思う。
吉田委員	9 ページ 1) 鉄道駅における駅前広場や駐車場・駐輪場の整備に加えて、エレベーターの整備という文言も入れることはできないか。
酒井委員長	検討していただきたいと思う。他に意見はいかがか。
山崎委員	行田市のホームページの観光部門で、市内の観光ルートやコースは示しているのか。
事務局(青山主幹)	ぶらっと行田という冊子の中に観光スポットを巡るコースが書いてある。ホームページにも載っている。
山崎委員	来た方でないとそうしたガイドブックはもらえないので、来る前にそうした資料があると助かると思う。
酒井委員長	かなり多くの種類のパンフレットがある。むしろそれをどのように知らせるかというのが課題だと思う。
宮本委員	パンフレットはホームページに良く載っていると思うが、そのページに行きやすいかというのは疑問がある。もう少し見やすくすると良いと思う。また、ものづくり大学では留学生が増えている。以前、英語のパンフレットが出たようだが、置かれている場所が限られており、ホームページにも載っていない。そういった

今村委員	<p>意味ではユニバーサルデザインとして外国人への対応も必要に思う。</p> <p>ソフトの話になるが、まちづくりは市民の役割が重要である。市民が愛着を持つという観点から、行田市歌や市の木、市の花を積極的に活用すべきだと思う。菊や古代蓮が市の花であるならば都市公園等になぜ活用しないのかと思う。小中学生には行田市歌を教えるべきだと思う。市民憲章も唱和すべきである。象徴的なものなのできちんと旗印をあげて市民が協調してまちづくりに活かすことが大事だと思う。市の鳥、昆虫なども、小学生に選んでもらってもよいので制定することを考えてもよい。そういったことからまちづくりをスタートさせなければ一体感は醸し出せないと思う。</p>
長原委員	<p>都市づくりの基本目標は、人が住んでよいまち、人にとってよいまちが一番のコンセプトとして通さなければならないと思う。観光ももちろんだが、行田が本当に観光で食べていけるまちなのか疑問に思う。また、のぼうの城が今注目されているがそれがずっと続くのか。子どもたちにも行田市の歴史を学べる空間や授業等でもそういった時間を設けることも学校の中で必要かと思う。ハード面の取り組みは良いと思うが、人がいなければ意味がないことだと思う。企業誘致をして行田がベットタウンとなるような構想もあった方が良く思う。子どもたちが安心して住むことのできる教育や環境を整えることが重要である。統廃合目前の学校が多くなっているが、それに対するプランがなければならない。例えば市内循環バスにスクールバスが入って子どもたちを送迎する、子どもたちがいる所に老人が入ってコミュニティが生まれてくる、そういったまちづくりであってほしいと思う。人口が増えなければコミュニティも生まれてこないと思う。</p>
白井委員	<p>私の大学に、ものづくりは人づくりというコンセプトがある。まちづくりも人づくりが大切だと思う。以前、行田マイスターについて調査した際、市民マイスターといったまちづくりに関わる人をどのように作っていくか、ソフトの作り方が欠落してしまっ</p>

酒井委員長

ていると思う。そういったものを位置付けることが大事だと思う。人づくりに関する施策をもう少し盛り込むべきだと思う。

根本的なご指摘を頂いたと思う。この都市計画マスタープランは、総合振興計画のハード部門という位置付けではあるが、ハードはソフトと密接な関係があるという意味で、その辺りの表現をもう少し加えても良いのではないかと思う。都市計画マスタープランの性格上表現できない部分もあると思うのでそのことを念頭に置きながら、難しい注文ではあるが事務局に検討していただきたい。

次回はほぼ正本の形で皆さんに議論していただくことになると思う。他に意見が無ければ、最終的な報告書の段階で議論していただくことになると思うので、ただいまのご意見を原案に修正していただきそれを承認いただくということでよろしいか。

それでは、これをもって本日の議事は全て終了とする。

議事審議終了